

第二十九回

西日本菊花大会

内閣総理大臣賞に

大輪部門 山口義寛氏(八幡西区)



山口義寛氏(八幡西区)の菊

大会に加え、十一月十日には、第三十五回全国菊花大会福岡宗像大会も同時開催され、全国、西日本の名品菊が一同に宗像に集まった。

十一月二十日第二十九回西日本菊花大会も滞り無く終了し、平成十一年の神都宗像の秋も幕を閉じた。

今年度の各賞受賞者は次の通りです。

- 厚生大臣賞 古木部門 櫻木為生 田川市
自治大臣賞 小倉部門 内閣重義 佐世保市
建設大臣賞 建設部門 初井弘巳 嘉穂郡
内閣官房長官賞 初井弘巳 嘉穂郡
宮地隆治 武雄市
環境庁長官賞 山領松行 杵島郡
山領松行 杵島郡
衆議院議員山崎拓賞 衆議院議員渡辺具能賞 末次勝記 若松区
衆議院議員渡辺具能賞 上野幸隆 宗像市
特別表彰 宗像大社宮司賞 池田昭 八幡西区 長谷川良治 城南区 浜田成男 高田郡 真崎憲(宗像市) 高田郡 真崎憲(宗像市) 高田郡 真崎憲(宗像市) 順一(大野城市) 松越
九州農政局長賞 竹内雪豊 小倉南区
福岡県知事賞 時田彦光(鳥栖市) 清崎春美 京都市 高地茂敏(早良区) 初井弘巳(田川市) 佐賀県知事賞 坂本生記 杵島郡
熊本県知事賞 境 正 宇土市
長崎県知事賞 馬場正晴 佐世保市
福岡県知事賞 成田カオル(遠賀郡) 矢野政直(小倉南区) 藤正邦(糟屋郡) 三浦澄夫(宗像市)
福岡県町村長会賞 福岡県町村長会賞 坂本幸子
鳥取県(八女市) 浜田豊

子(糟屋郡) 田畑実志(八幡西区) 千々和正信(八幡西区)
福岡県町村長会 議員会々々々々
阿久根力(小倉南区) 平石勝(八幡西区) 池口盛信(八幡西区) 初井藤子(田川市)
福岡県教育委員会賞 生武静男(鳥栖市) 坪根弥一(小倉南区) 千々和正信(八幡西区) 浜田豊子(糟屋郡)
全日本菊花連盟賞 松尾常義 高原良和 九州・山口花丹園芸 連絡協議会々々々賞 深川年洋 原慶 白川敦 田畑実志
九州花卉卸売市場 連合会々々々賞 鎮守成明 田中利夫 古川清茂 妹川尚生
福岡県農業協同組合 中央会々々々賞 石橋善治 波多野松男 佐藤秀俊 安藤輝正
福岡県観光連盟会長賞 妹川尚生 西山時秋 宮地隆治 金子貴顕
福岡県農林事務所賞 田中康道 梶原崇光 渡辺道 水田ツルミ
県農協連合会長賞 瀧口龍馬
福岡県中小企業経営者協議会長賞 高田勉 赤迫博 中尾利直 田中祐成
福岡県高齢者能力活用センター賞 池口盛信 矢野政直 一世勝彦 寺下政國
九州旅客鉄道株主会賞 木下みつ子 山口勝喜
福岡県花卉園芸連合会々々々賞 許保保 要博文 岩下宗則 宮本正 黒田満男
福岡県花卉市場協議会 稲水茂 田中豊 石田進 坂本幸子

粕屋都市長協議会賞 寺島隆生 松尾勇 遠賀郡町村長会々々賞 山根正雄 西村繁芳
宗像郡町村長会々々賞 石丸五年 今村忠文 白川敦 木下之也 栗田義信 馬場園馨
福岡県町村長会々々賞 永島文男 竹内雪豊 網脇倉子 関本和代 遠賀町長賞 永島文男 時田義光 菅屋町長賞 穴井利次 竹下次男 水巻町長賞 倉田征喜 加藤喜喜 古賀市長賞 高山健次 網脇倉子 宗像市長賞 岩倉秀夫 伊福三郎 津屋崎町長賞 岸本敏雄 安部由夫 福岡町長賞 安水儀三郎 堤勇孝 玄海町長賞 大森忠夫 境正 阿久根力 池口盛信
大島村長賞 岩川健二 野田角丸 玄海旅館経営者賞 大塚孝一 橋上能和 西島見崎久義 緒方迪吉 園田秋博 岸本敏雄
宗像青年会協賛賞 宗像青年会協賛賞 宮野克己 木下みつ子 三浦正 遠賀農協協同組合会長賞 下田一義 岡本典之 宗像農協協同組合会長賞 御田良和 安藤輝正 石原一天 宮崎高治
津屋崎町商工会会長賞 津屋崎町商工会会長賞 菅野重 宗像市商工会会長賞 木下之也 福岡町商工会会長賞 安田剛 玄海町商工会会長賞 高原良和 大島村商工会会長賞 生武静男 宗像大氏子会長賞 松尾常義 宇土菊枝 真崎憲

玄注福岡 ライオンクラブ賞 田代定 園田秋博 山本義雄 安水儀三郎 神楽旅館経営者賞 見崎久義 緒方迪吉 園田秋博 岸本敏雄
宗像青年会協賛賞 宗像青年会協賛賞 石原晴男 寺下政國 松永保夫 馬場正晴
宗像地区商工会 小林利美
宗像地区商工会 青年部長賞 松尾勇 波多野松男 許保保 中原力子賞 柳川栄 金子貴顕 倉田征喜 田中豊
(株)サカタのタネ賞 石丸五年 大森忠夫
(株)マツ小泉商事 グリーンキング賞 堤勇孝 内閣重義
グリーンソフト賞 宗像学童ネットワーク、宗像菊友会
ミネネ特別賞

宇薊枝 馬場園馨 宮崎高治
サンボスト入選 関本和代 石田桂子
マキ子ロップ入選 朝臣富子 堤静子
朝臣富子入選 園田定
大妻園入選 水田ツルミ
山領松行 山領松行
泰納花壇 園芳会 千々和正信 高島雪茂
最高齢者賞 渡辺道
泰納 大野城市菊友会 松越順一 稲水茂
(株)サカタのタネ賞 石田桂子 高田助 栗田義信 宮野克己 高山健次 藤井千秋 御田良和 古川清茂 仁田昭明 古波蔵 正忠 瀬原千雄 赤迫博 宮本正 帆足厚子

今年第十九回を迎えた当大社最大の神賑行事「西日本菊花大会」(主催)宗像大社菊花会・後援)福岡県が十月十九日より開始した。

十月中旬より会場作りが始まり、大輪・懸崖・盆栽・福助・得作等の名作品約三千鉢が搬入され展示された。この展示会場は十月十八日、十九日の両日に亘り、宗像地区商工会青年部と菊花会役員並有志、宗像菊友会各員の御奉仕により境内いっぱいに特設された。

またその後、菊の搬入が始まり、福岡、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島、北九州、遠賀、宗像地区と九州を始め山口地方とまで西日本第一の菊花の名品がトラックにて二十八日迄搬入された。

十月十九日には、審査会が開始され、福岡県農業総合試験場園芸研究所所長岡部正昭氏を審査長とする審査員六名(福岡県農業総合試験場園芸研究所野菜花会部長小林泰生氏、同研究所花き花木室長谷川孝弘氏、同研究所主任技師國武利浩氏、同研究所研究員黒柳直彦氏、福岡県花き専門技術員近藤英和氏、福岡県花卉園芸組合連合会顧問吉田徹生氏)の審査により厳正公平に各部門審査が終日行われた。

審査決定後、各作品に賞看板が立てられ飾り付けが一段と立派になった。特に十一月三日の文化の日、秋晴れの中、境内は見学者で終日大賑わった。七三三の親子連れも多ク、正装姿で菊花を前に記念写真撮る人も目立った。今回の第十九回西日本

宗像大社宮司賞 池田昭 八幡西区 長谷川良治 城南区 浜田成男 高田郡 真崎憲(宗像市) 高田郡 真崎憲(宗像市) 高田郡 真崎憲(宗像市) 順一(大野城市) 松越
九州農政局長賞 竹内雪豊 小倉南区
福岡県知事賞 時田彦光(鳥栖市) 清崎春美 京都市 高地茂敏(早良区) 初井弘巳(田川市) 佐賀県知事賞 坂本生記 杵島郡
熊本県知事賞 境 正 宇土市
長崎県知事賞 馬場正晴 佐世保市
福岡県知事賞 成田カオル(遠賀郡) 矢野政直(小倉南区) 藤正邦(糟屋郡) 三浦澄夫(宗像市)
福岡県町村長会賞 福岡県町村長会賞 坂本幸子
鳥取県(八女市) 浜田豊

粕屋都市長協議会賞 寺島隆生 松尾勇 遠賀郡町村長会々々賞 山根正雄 西村繁芳
宗像郡町村長会々々賞 石丸五年 今村忠文 白川敦 木下之也 栗田義信 馬場園馨
福岡県町村長会々々賞 永島文男 竹内雪豊 網脇倉子 関本和代 遠賀町長賞 永島文男 時田義光 菅屋町長賞 穴井利次 竹下次男 水巻町長賞 倉田征喜 加藤喜喜 古賀市長賞 高山健次 網脇倉子 宗像市長賞 岩倉秀夫 伊福三郎 津屋崎町長賞 岸本敏雄 安部由夫 福岡町長賞 安水儀三郎 堤勇孝 玄海町長賞 大森忠夫 境正 阿久根力 池口盛信
大島村長賞 岩川健二 野田角丸 玄海旅館経営者賞 大塚孝一 橋上能和 西島見崎久義 緒方迪吉 園田秋博 岸本敏雄
宗像青年会協賛賞 宗像青年会協賛賞 宮野克己 木下みつ子 三浦正 遠賀農協協同組合会長賞 下田一義 岡本典之 宗像農協協同組合会長賞 御田良和 安藤輝正 石原一天 宮崎高治
津屋崎町商工会会長賞 津屋崎町商工会会長賞 菅野重 宗像市商工会会長賞 木下之也 福岡町商工会会長賞 安田剛 玄海町商工会会長賞 高原良和 大島村商工会会長賞 生武静男 宗像大氏子会長賞 松尾常義 宇土菊枝 真崎憲

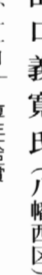
玄注福岡 ライオンクラブ賞 田代定 園田秋博 山本義雄 安水儀三郎 神楽旅館経営者賞 見崎久義 緒方迪吉 園田秋博 岸本敏雄
宗像青年会協賛賞 宗像青年会協賛賞 石原晴男 寺下政國 松永保夫 馬場正晴
宗像地区商工会 小林利美
宗像地区商工会 青年部長賞 松尾勇 波多野松男 許保保 中原力子賞 柳川栄 金子貴顕 倉田征喜 田中豊
(株)サカタのタネ賞 石丸五年 大森忠夫
(株)マツ小泉商事 グリーンキング賞 堤勇孝 内閣重義
グリーンソフト賞 宗像学童ネットワーク、宗像菊友会
ミネネ特別賞

宇薊枝 馬場園馨 宮崎高治
サンボスト入選 関本和代 石田桂子
マキ子ロップ入選 朝臣富子 堤静子
朝臣富子入選 園田定
大妻園入選 水田ツルミ
山領松行 山領松行
泰納花壇 園芳会 千々和正信 高島雪茂
最高齢者賞 渡辺道
泰納 大野城市菊友会 松越順一 稲水茂
(株)サカタのタネ賞 石田桂子 高田助 栗田義信 宮野克己 高山健次 藤井千秋 御田良和 古川清茂 仁田昭明 古波蔵 正忠 瀬原千雄 赤迫博 宮本正 帆足厚子

宗像大氏子会長賞 松尾常義 宇土菊枝 真崎憲
(株)サカタのタネ賞 石田桂子 高田助 栗田義信 宮野克己 高山健次 藤井千秋 御田良和 古川清茂 仁田昭明 古波蔵 正忠 瀬原千雄 赤迫博 宮本正 帆足厚子
(株)マツ小泉商事 グリーンキング賞 堤勇孝 内閣重義
グリーンソフト賞 宗像学童ネットワーク、宗像菊友会
ミネネ特別賞

鎮国寺名譽住職

立部瑞祐氏永眠さる



去る十一月十三日、真言宗御室派別格本山鎮国寺名譽住職の立部瑞祐氏が逝去された。享年八十八歳。同師は、戦後まもない昭和二十三年、鎮国寺に入山された。

当時の鎮国寺は、今の立派な聖地からは想像も出来ない荒地で、本山でも廃寺にしようかと見切りをつける段階になっていたようである。

そへ自ら鎮国寺の復興をかかっていたのが故人であった。

苦節五十年、現今、神都の名利として知られ、参拝者で賑わう同寺に在り方され、その間、真言宗御室派管長を始め四十二世仁和寺智照 京都府・市役教長 長などを務められた。人徳は貴く人々に愛され、又「快僧と稱」話に見る様なユーモアたっぷりの人柄でもありました。

ご逝去を悼み、謹んで哀悼を、お祈り申し上げます。

一、日時 十一月十日(日) 午前八時 祭典 午前十一時 一、場所 祭典 本殿 一、お座料(二名分) 金二〇〇〇円

古式祭のご案内
古式祭とは、今年最後の収穫感謝祭のことです。氏神様へ一年間の神恩を感謝して今年の収穫物を捧げ、忌火で炊いた御飯をお供えし、氏子の人達が一緒にいただく神事です。この神事は、宮中に於て陛下が神嘉殿にて新嘗祭を行われておられるのと同じ性質のもの。この古式祭は又「延命招福」の集いともいわれますが、氏神様と共に一年間の喜びを分かちあうといった「神人相楽」を共にする、年に一度の集いであることに意味があります。八百年以上の伝統をもつ宗像大社の古式祭には、特に「お菓子」と呼ばれる、九十九母、菱餅等で作られた特殊神饌や、江口の浜よりあがるゲバサモという海産物をお供えし、お座を催すのが古来からのしきたりです。又くじが行われ、翁面・御神籤などが授与されます。

第一回九州山口各県 対抗大補助特別競技
山領松行 杵島郡、坂本生記 杵島郡、古川清茂 杵島郡
宗像大氏子会
山領松行 トーク
山領松行、半田茂之、重光 瀧口龍馬、江田真崎憲、生 徳水信子、堤静子



西日本菊花大会の会場

宗像大社歌会 俳句作品集(四三)

自由ヶ丘 細川 禎子
落ち柿に蟻のむれて黒く
なり

福岡 森 清
それぞれに鳴きつる雀朝の
秋

日里 花田いつ枝
寧白を得し身に甘しとろろ
汁

東郷 吉武 湧泉
空しさを蘭の香りに過こす
日々

東郷 中野 きみ
早々と早稲田の新米御先祖
に

東郷 吉田 杏子
山頭火歩いて来そうな時雨
道

東郷 三浦美千代
早稲うるる傍に赤き彼岸花

東郷 田中 雨葉
糞虫や二十八將の跡記す

東郷 木原 房子
ひたひたと潮ふくれ寄る秋
の浜



(続) 次ノ寄物

142

いししいただし

十一日、鄭州の商城城壁
址を見学、商とは殷である。
商は紀元前十七世紀頃から
紀元前十一世紀頃まで、約
六百年間、黄河流域で栄え
た王朝である。殷王朝第三
十一代の紂王と妲己にまつ
る「酒池肉林」「長絨の
飲」が知られる。この殷代
には農業も大いに発達し、
卜占(甲骨文字)、すぐれ
た青銅器も造られている。
城壁は覆屋がしてあり、
付近より出土した銅器類も
展示してあった。時間が少
しあったので付近の畑を歩
いてみると、いたるところ
に陶片が落ちていたので、
三片ほど記念に拾う。覆屋
の横は土産物屋があり、中
のをぞいたら、レプリカカ



龍門石窟にて

鋼剣や銅戈、甲骨文字を刻
した亀甲などを買った。青
銅剣はそれらしく緑青を付
着させ、出来もよかった。
甲骨文字は貝塚繁樹の「古
代殷商国」を以前読んで興
味もあつたので買つてきた。
甲骨文字は解説書もえら
び、百六十人を超えて
三世紀、弥生時代後期、
中国では三国の時代(曹
の孫、明帝の景初三年(二
三九年)、倭の女王卑呼は
大夫難升米から洛陽におく
り、明帝より、親魏使王印
や銅鏡を賜つて居る。
二千年ほど前、確かにこの
洛陽の地に日本人が立つて
いたのである。
なお洛陽は東周王朝、後
漢、曹魏、西周、北魏、隋
や唐、後梁、後唐と九朝の
都があつたといふのである。
三時頃には白馬寺到着。
後漢の永平十一年(六八)
に白馬寺が開かれた寺とい
う。伝説だが天然から二人
の僧が白馬に経文を積んで
この地にやつてきて仏教が
伝へた。当時の建物はない
が、明代頃のものを残つ
て居る。白馬寺の入口には

青柳種信著 瀛津島防人日記(下巻ノ十四)

宗像氏の紋三ツ柏なるが、
おのづから肖たりとて、神
紋石となんよびて、世にも
てあそぶ人多し。
神の代に
さかきにとりし
栴の葉の
かたし堅盤はとさへ
なるがやあやし
かなたこなた見ぬるに
日も西にたかぶきぬればと
て、勝浦より船乗して、勝
嶋近く漕たみて大島に帰
ぬれば、ともしとす頃にな
りたり。
今宵、河野ぬしがもとよ
りつかか来りて、しるて率

て行き、杯とりかはして、
いにしへの事など物語るに、
あるは日本紀をよめとて、
せちにこふ。けふし朝とく
田島行つて、日ひとあそ
びくらしつて、夜ふひあそ
びつけていたうつかぬれ
ども、もだがなく、神武
の御巻のはじめのほどをな
ん、いささかよみ(て)や
みぬる。
同(八月)一日、大島の
北のかた、御浦といふ所に
物す。こは里より十八町あ
なた、岩瀬の西に、沖つし
まにむかひておくまりたる
入江あり。



其江の西にさし出たる岩
崎を、神崎と云う。磯の岩
村に大なる馬ノ跡の址あり。
又、人の足跡なる小き数多
あり。彫たるが如し。潮干
ぬれば見ゆる。波かへて、
かなたこなたの岩角に、は
しりあるきてみるに、奇浪
あまき所にて、朝夕うちは
ふるに消すして、かくさ
だかこのりたるは、いと
もとよ奇きこと也。
愛な、宗像の神のはじ
めて来玉ひし所といふ。
風土記に崎門山といへるは、
このこと也。
吾もみつ

「神郡宗像」 宗像大社末社めぐり

中御供に次いで、正月十七
日の踏歌に、特に「王
子の御せん」について「大
御供の御せん、祝詞二せ
ん、神樂座、せん、小神供
六膳、内神樂座、せん、貴
首、せん、祝詞三膳、付御
首、御幣、笠紙なり」と
見えている。
正平(一三〇〇)年中行
事の許後現の眷屬小神拝
堂尊等のうち、「王子御
前」所あるに相當する。
江古時代書の「続風土記
に「斐山神社」として、
「王丸村」を許斐山と云
山上に許後現の社あり」と
と記され、同書附録の王丸
村許斐権現社の條に、「絶
頂に若(王子)社あり」と
いひ、同捨書九村許斐権
現社の條に「天社王子社
本社の上、山の頂上に在
石祠也。西に向へり。素蓋
鳴尊を祀る。」と記されて
いる。
明治八年の宗像神社辺津
宮撰(宮内省)によると、
祭神は古(賈)命、神
殿は入り、尺五寸、
横三尺とある。又同
十八年改定とある。
同十六年の宗像神
社境界社詳細書に
は、祭神は素戔鳴命、
本殿は建坪五丈六寸
三才。(ただし石祠)
明治十八年の宗像神
社境界社詳細書に
は、右の外境内(二
六坪、俣屋三戸、
例祭陰曆二月三日と
記されてあり、今日
の明細帳もこれに同
じである(宗像神社
史上巻)。
現今、四月二日に斎行さ
れる例大祭には宗像大社より
幣帛が奉げられ神官出向
の祭典が行われている。王
丸校区の産中奉仕による
大祭である。
この王神社、許斐権現
社を中心に、(田)王丸村、
久原村、光岡村等の産土神
との関係が深い。これは
「神郡」往昔の郷土国を明
らかに語る、鎮守様と氏子
の関連図でもあろう。

戦国時代の「神郡」宗像
は、宗像を大領と
して、祭致一致の
政体がしられ、宗像
神社の太皇司であり
萬石を以て城を持
つ武將でもあつた。
そうし中(中)に有つて、
祖を源とする許斐城
を居城して一族は、
この許斐(神郡)を
共に守つたのである。
王子神社は、この
許斐山の頂上に鎮座
される。この石祠前
に立つて、展覧は四
方に広がり、目下は
宗像市から四ツ塚連
山、その湯川山遠望
には鐘ノ岬、地ノ島を始め、
北西に筑前大島、南西には
福岡町から粕屋郡、さらに
遠く「草花山」を見る事が
出来る。この小山が、いか
に大切な城山であつたかが
伺える。
王子神社は「天(古)賈命」と
素戔鳴命二柱を祀る社で、
古来の宗像二社(撰社)織
幡・王子・的原・孔大寺・
宮地獄神社)の一つで許斐
権現社の奥宮である。
鎌倉期の宗像神社年中下
行事記に「許斐権現」の年



許斐山頂上にも宗像市町